

# MGC TODAY

特色ある優良化学会社を目指して

## 第72期中間事業報告書

平成10年4月1日～平成10年9月30日



**MGC**

三菱ガス化学株式会社

新潟工業所  
ISO14001認証取得

新潟工業所は全社の先陣を切って環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得しました。



## 目次

株主の皆様へ.....	1	中間損益計算書／役員.....	7
主要経営指標の推移.....	2	会社概要／主要製品.....	8
部門別営業概況.....	4	株式の概要.....	9
中間貸借対照表.....	6		

表紙：超純過酸化水素ELM®はシリコンウエハなどの電子工業用部品の洗浄液として使用されています。

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

当社第72期上半期(平成10年4月1日から平成10年9月30日まで)の中間事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当上半期におけるわが国経済は、株価の低迷や深刻化する金融システム不安等の影響により個人消費や住宅投資、民間設備投資が減少して景気は一段と後退しました。

化学工業におきましては、長期化する景気停滞の影響から需要が低迷し、さらにアジア経済悪化の影響とも相俟って、事業環境は厳しい状況となりました。

このような情勢のもとで、当社は主力製品の積極的な営業活動の推進、新製品の開発育成に努め、合理化、省力化に取り組んでまいりました。しかしながら、売上高は対前年同期比51億1千万円減の1,079億円となり、経常利益は42億7千万円減の11億2千万円、中間利益は7億1千万円となりました。

なお、株主の皆様への中間配当金は、前中間期と同額の1株につき2円50銭とさせていただきます。

今後の経済情勢は、引き続き株価の低迷や金融機関の信用収縮等に加え、企業の業績悪化や円相場の動向、米国経済の景気減速懸念等の不安材料が多く、景気の早期回復は難しい状況にあり、当社を取り巻く事業環境も引き続き厳しい状況が続くものと予想されます。

当社といたしましては、“特色ある優良化学会社”を目指して、コスト競争力の強化、新規需要の開拓促進、さらには当社の技術力を活かした製品開発へ注力し、企業体質の強化と収益の改善に努めてまいり所存でございます。

株主の皆様には、何卒倍旧のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

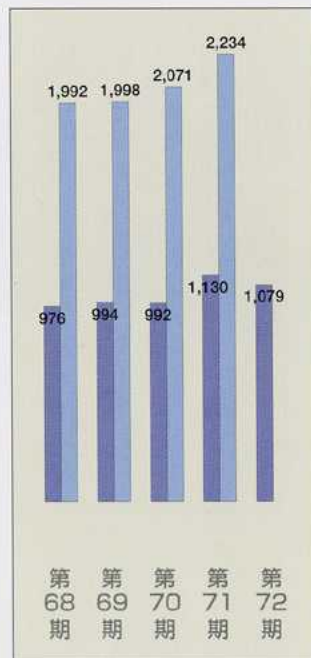


平成10年12月  
取締役社長

大平 晃

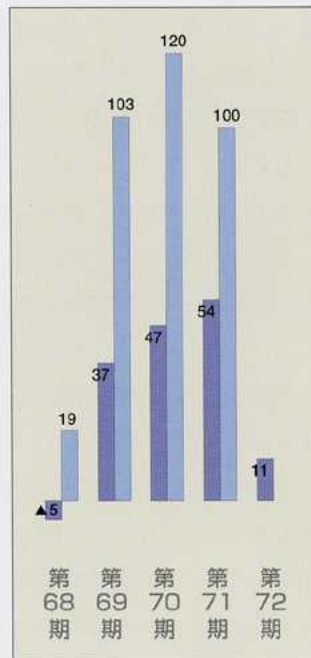
## [売上高 (単位: 億円)]

■ 中間 ■ 通期



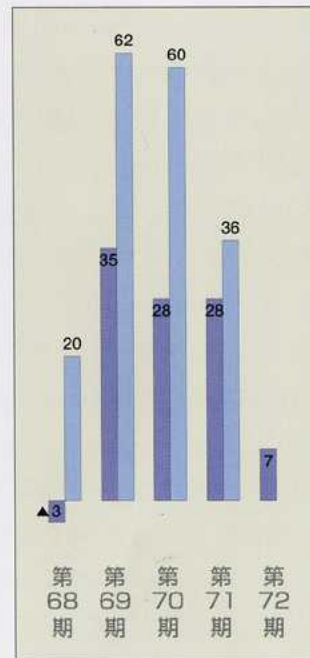
## [経常利益 (単位: 億円)]

■ 中間 ■ 通期



## [当期利益 (単位: 億円)]

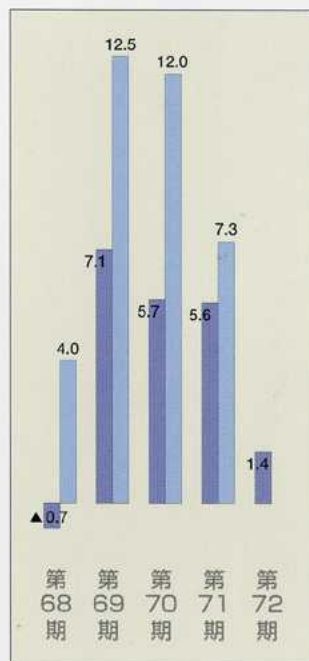
■ 中間 ■ 通期



第68期は景気は期の後半に至り穏やかな回復の傾向を示し始め、一部の製品には需給の改善が見られ増収増益となりました。  
 第69期は景気は伸び悩みましたが、一部製品の需給の改善及び市況の好転等により、売上高は横這いでしたが増益となりました。  
 第70期は景気の回復基調を受けて増収となり、また金融収支の改善もあって、経常利益は増加しました。  
 第71期は景気の後退が鮮明になるなかで、売上高は増加したものの、原価の増加及び特別損失により、減益となりました。

[1] 株当たり当期利益 (単位:円)

■ 中間 ■ 通期



[総資産 (単位:億円)]

■ 中間 ■ 通期

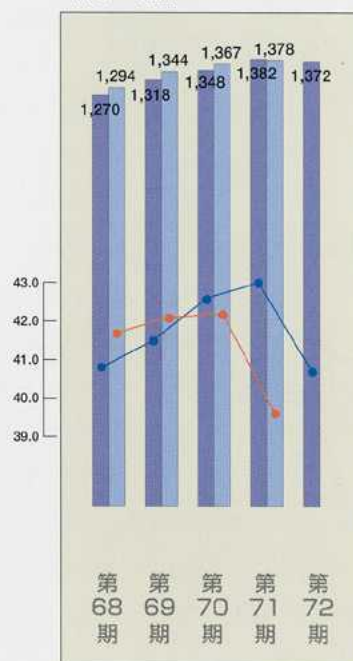


[株主資本 (単位:億円) ・

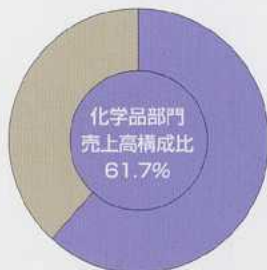
株主資本比率 (単位:%)]

■ 中間 ■ 通期

● 中間 ● 通期



## [化学品部門]



化学品部門の当上半期の売上高は、対前年同期比75億1千万円減の666億5千万円となりました。

メタノール・アンモニア系製品では、メタノールは需要の低迷や世界的に生産能力が増加したことから国際市況が大幅に下降して、売上高は減少しました。誘導品のホルマリンと多価アルコール類は需要が低迷し、販売価格も下降して売上高は減少しました。メタクリル酸メチルは販売数量が伸長して売上高は増加しましたが、エステル系製品及びアミン系製品は

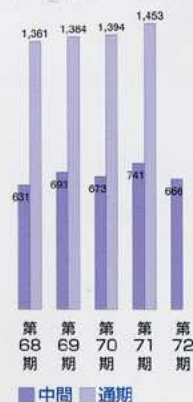
需要の低迷により売上高は減少しました。アンモニア系製品は販売数量、売上高ともに減少しました。

キシレン系製品では、バラキシレン及び高純度テレフタル酸は販売数量が増加しましたが、国際市況低迷の影響を受けて販売価格が下降し、売上高は減少しました。メタキシレンは堅調に推移しましたが、その誘導品であるメタキシレンジアミンは販売数量、売上高ともに減少しました。無水フタル酸及び可塑剤は市況が低迷して、売上高は減少しました。

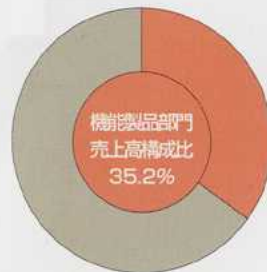
工業薬品類では、過酸化水素は大手需要先である紙パルプ業界への販売が横這いで推移したものの、輸出が減少して売上高は減少しました。水加ヒドラジンは輸出が好調で売上高は僅かに増加しました。ハイドロサルファイトは国内販売が減少したものの輸出が伸長して売上高は横這いとなり、過硫酸塩類は輸出が減少して売上高は僅かに減少しました。

[化学品部門売上高]

(単位:億円)



## [機能製品部門]



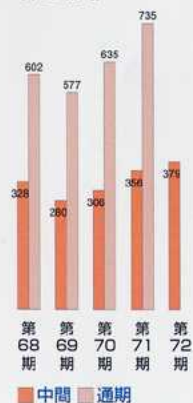
機能製品部門の当上半期の売上高は、対前年同期比22億9千万円増の379億8千万円となりました。

エンジニアリングプラスチックは需要が伸び悩むなか、販売数量、売上高は横這いで推移しました。

プリント配線板用材料は半導体パッケージ向け用途のBT系積層板が

[機能製品部門売上高]

(単位:億円)



伸長し、堅調に推移しました。

電子工業用薬品類は半導体需要の低迷や輸出の海外合併企業生產品への切り替えが進んだことなどにより、売上高が伸び悩みました。

食品の鮮度保持等に使用される脱酸素剤「エージレス」の売上高は増加しました。

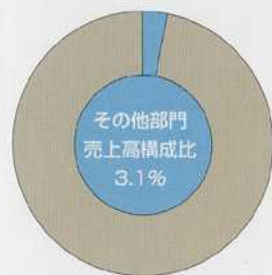
## 用語解説

### 電子工業用薬品類とは？

MGCでは、超純過酸化水素をはじめ、超純アンモニア水、TMAH(水酸化テトラメチルアンモニウム)、ELMクリーン等を製造・販売しています。

これら電子工業用薬品類は、主に半導体デバイス、ウエハの洗浄液として使用されます。近年の電子工業用部品の微細化、高集積化に伴い、洗浄プロセスで使用される薬品の高純度化、高機能化への要望は益々厳しくなっています。MGCはこれらの要望に応えるべく、多くの自社開発技術・独自技術により高純度化、高機能化を達成しています。

## [その他部門]

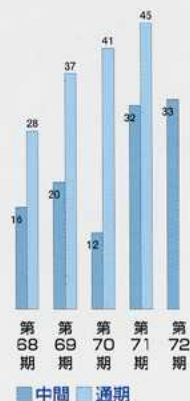


その他部門の当上半期の売上高は、対前年同期比1億1千万円増の33億1千万円となりました。

技術販売は、メタノール法各種ガス製造技術等の販売がありました。地熱事業の蒸気販売は順調に推移しました。当上半期は、不動産の分譲による売上高はありませんでした。

### [その他部門売上高]

(単位:億円)



## 中間貸借対照表

(平成10年9月30日現在)

(単位:百万円)

科 目	金 額
<b>(資 産 の 部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>177,235</b>
現金・預金	13,313
受取手形	9,731
売掛金	63,661
有価証券	47,580
棚卸資産	30,586
その他	12,361
<b>固定資産</b>	<b>160,078</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>121,966</b>
建物・構築物	32,319
機械装置	42,689
土地	15,531
その他	31,425
<b>無形固定資産</b>	<b>468</b>
<b>投資等</b>	<b>37,642</b>
投資有価証券	22,092
子会社株式・出資金	9,973
その他	5,576
<b>資産合計</b>	<b>337,313</b>

(単位:百万円)

科 目	金 額
<b>(負 債 の 部)</b>	
<b>流動負債</b>	<b>109,181</b>
支払手形	4,390
買掛金	28,683
短期借入金	48,872
その他	27,233
<b>固定負債</b>	<b>90,875</b>
社債	50,000
転換社債	1,428
長期借入金	24,587
退職給与引当金	14,408
その他	452
<b>負債合計</b>	<b>200,057</b>
<b>(資 本 の 部)</b>	
<b>資本金</b>	<b>41,970</b>
<b>法定準備金</b>	<b>41,822</b>
<b>剰余金</b>	<b>53,463</b>
(うち中間利益)	(712)
<b>資本合計</b>	<b>137,256</b>
<b>負債・資本合計</b>	<b>337,313</b>



## 中間損益計算書

(平成10年4月1日～平成10年9月30日)

(単位:百万円)

科 目	金 額
<b>売上高</b>	<b>107,953</b>
売上原価	89,734
販売費及び一般管理費	16,179
<b>営業利益</b>	<b>2,039</b>
営業外収益	5,264
営業外費用	6,180
<b>経常利益</b>	<b>1,123</b>
特別利益	105
特別損失	236
<b>税引前中間利益</b>	<b>991</b>
法人税及び住民税	279
<b>中間利益</b>	<b>712</b>
前期繰越利益	6,304
<b>中間未処分利益</b>	<b>7,017</b>

## 役員

取締役会長	西川 禮 二	[代表取締役]
取締役社長	大平 晃	[代表取締役]
専務取締役	土屋 裕	[代表取締役]
専務取締役	小野 英 彰	[代表取締役]
常務取締役	鬼塚 磐 雄	
常務取締役	石田 隆	
常務取締役	今井 靖 夫	
常務取締役	東郷 静 雄	
常務取締役	池田 幸 男	
常務取締役	尾方 康 紀	
取 締 役	加藤 泰 久	
取 締 役	正木 定 男	
取 締 役	濱屋 邦 雄	
取 締 役	渡部 博	
取 締 役	佐藤 勝 明	
取 締 役	小高 英 紀	
取 締 役	岳 杜 夫	
取 締 役	中村 博 海	
取 締 役	川木 隆 雄	
取 締 役	藤森 正 也	
取 締 役	高見 澤 雄 次	
取 締 役	井上 六 郎	
監 査 役	市原 満 雄	(常勤)
監 査 役	大塚 貞 夫	(常勤)
監 査 役	伊藤 秀 嗣	(常勤・社外)
監 査 役	深谷 峻	(非常勤・社外)

(平成10年9月30日現在)

◎社名

三菱ガス化学株式会社(登記社名:三菱瓦斯化学株式会社)  
 MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

◎コーポレートシンボル



◎本社所在地

〒100-8324 東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル

◎創業

大正7年1月15日

◎設立

昭和26年4月20日

◎資本金

419.7 億円

◎主な事業目的

1. 以下の製品の製造、販売

- 無機・有機化学製品、石油化学製品
- 肥料、農薬、飼料、飼料添加物
- 合成樹脂、合成ゴムその他の高分子製品
- 染料、顔料、塗料、接着剤
- 医薬品、医薬部外品、生化学薬品、食品、食品添加物
- 洗浄剤、漂白剤、ガス吸収剤
- 土木建築用・農水産用・流通関連用・電気機器用資材
- 窯業製品
- 前記各製品に関連する製品

2. 天然ガス、石油その他の鉱物の採掘、販売、コンサルティング
3. 地熱等エネルギー、エネルギー関連技術開発、販売、コンサルティング
4. 各種化学工業用、環境保全用その他各種機械設備の設計、製作、販売、運転、監理、コンサルティング
5. 各種化学工業関連技術販売、研究、開発、調査受託、コンサルティング
6. 環境測定、化学物質の安全試験、その他各種試験、分析受託、コンサルティング
7. 土木、建築その他各種工事の設計、施工、請負、監理
8. 不動産の売買、賃貸借、管理およびその仲介
9. 海上運送事業、貨物運送取扱業、倉庫業、旅行業
10. 前各号に付帯関連する一切の業務

◎主要取引銀行

(株)東京三菱銀行 三菱信託銀行(株) (株)日本興業銀行  
 農林中央金庫 (株)横浜銀行

化学品部門

[メタノール・アンモニア系製品]

メタノール、ホルマリン、アミン類、ジメチルホルムアミド、塩化コリン、メタクリル系製品、アンモニア、尿素、多価アルコール類

[キシレン系製品]

メタキシレン、パラキシレン、オルソキシレン、エチルベンゼン、高純度テレフタル酸、無水フタル酸、可塑剤、メタキシレンジアミン、無水トリメリット酸、無水ピロメリット酸

[その他工業薬品]

過酸化水素、ハイドロサルファイト、苛性ソーダ、水加ヒドロジン、過炭酸ソーダ、過硫酸塩類、化学研磨液、水処理剤

機能製品部門

[合成樹脂製品及びその他製品]

ポリカーボネート樹脂、ポリアセタール樹脂、ポリフェニレンエーテル樹脂、ナイロンMXD6樹脂、エポキシ系銅張積層板、BTレジン系銅張積層板、電子工業用薬品、エージレス

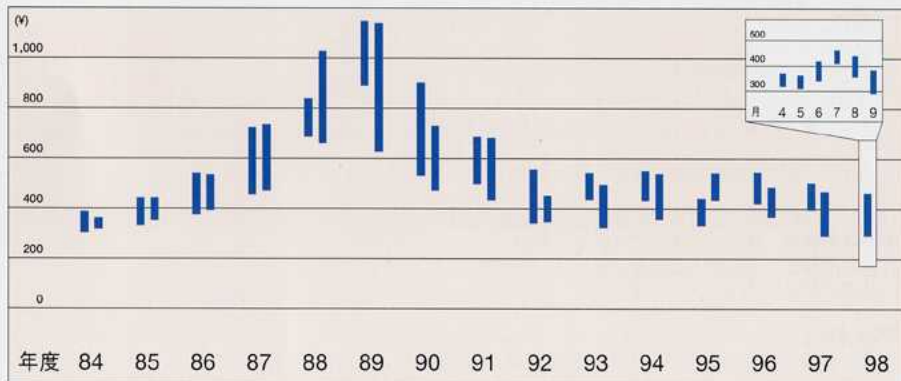
# 株式の概要

上場証券取引所	東京・大阪・名古屋 各証券取引所第一部、新潟証券取引所		
発行済株式総数	498,622,398株		
株主数	46,771名		
大株主	日本生命保険相互会社	36,046千株	7.2%
	三菱信託銀行株式会社	26,305千株	5.3%
	明治生命保険相互会社	23,979千株	4.8%
	株式会社東京三菱銀行	23,389千株	4.7%
	株式会社日本興業銀行	15,183千株	3.0%
	住友信託銀行株式会社	15,160千株	3.0%
	農林中央金庫	14,053千株	2.8%
	株式会社横浜銀行	13,711千株	2.7%
	東洋信託銀行株式会社	13,077千株	2.6%
	株式会社大和銀行年金信託運用部	9,919千株	2.0%

## 所有者別分布状況



## 株価チャート



## 株式についてのご案内

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	6月下旬
同 総 会 権 利 行 使 株 主 確 定 日	3月31日
利 益 配 当 金 支 払 株 主 確 定 日	3月31日
中 間 配 当 金 支 払 株 主 確 定 日	9月30日
株 券 交 付 手 数 料	1枚につき200円（消費税・別）
1 単 位 の 株 式 数	1,000株
公 告 掲 載 新 聞	東京都において発行する日本経済新聞
名 義 書 換 代 理 人	三菱信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
同 事 務 取 次 所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
（電話お問合わせ） 郵便物送付先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋1丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話 (03) 5391-1900（代表）

単位未満株式の買取請求について

単位未満株式の売却をご希望の場合（買取請求）は、名義書換代理人にてお取扱いいたします。但し、財団法人証券保管振替機構に株券を預託されている場合には、お取引の証券会社にお申し出下さい。